

## 「総仕上げ期」の学習方法 —教職教養・一般教養・専門教科—

「第1次教員採用選考試験」の直前期です。一部教職教養のみ出題という自治体や選択制を取り入れる自治体、自治体特有の取り組みを出題する自治体、論作文を一次に行う自治体などの特徴に着目しましょう。これまで「基礎力養成期」・「実力アップ期」を経て「総仕上げ期」と積み上げてきた成果を発揮するため、教職教養・一般教養・専門教科などの筆記試験を重点的に見直し、1・2次試験を突破できるよう実力アップを図りましょう。



	基礎力養成期	実力アップ期	総仕上げ期
教職教養 一般教養 専門教養 (1次試験は筆記問題重視)	広く深く参考書・過去問などを熟読し苦手を明らかにし基礎力を高めよう。自治体の1次・2次の出題傾向を分析しよう。12月までは、一般・教職、専門を重視しよう。	過去問や模擬試験を活用し、自己分析を行いノートに整理しよう。これまでの成果を模擬試験で実力を試そう。答申・報告や学習指導要領のつながりを把握し、不得意分野を克服しよう。	直前期は、これまでのノートづくりや模擬試験の結果を生かした総復習を行い全体のつながりを理解し実力アップを図ろう。受験自治体の問題数と時間配分など問題を解く練習をしよう。
個人面接 集団面接 集団討論 模擬授業 場面指導	面接は「人物重視・即戦力」を見極める場です。「引出し」づくりと捉え教師像・生徒像を骨太に仕上げましょう。	学習指導案づくりは実力アップのコツです。面接ではボランティア体験での学びが有効です。試験官役を立て面接のシュミレーションをしよう。	筆記問題の知識を面接や論作文に生かす総合力を育むもう。時事問題や受験自治体に関する問題に積極的に取り組もう。
論作文 400文字 800文字 1000文字 など	学校ボランティア体験などに積極的に取り組み、授業像・学級像・チーム学校像を育み、自己の教師像を具体的に創ろう。	課題に対し「正対」しその背景となる「キーワード」を解決するために「三つの柱立て」それぞれに「論例策」を具体的に論述できる力を育もう。	教職・専門教養の学びを「引出し」づくりを通して、面接や討論に強い実践的指導力(即戦力)を育むとともに論理的思考力を育もう。

(令和元年度東京アカデミー資料 一部引用)

それでは、具体的な「教職教養」対策では、特に、教員採用選考試験対策の勉強、過去問が必要です。総仕上げ期では、学習指導要領(総則、道徳科、総合学習)や中教審答申、第3次教育振興基本計画に目を通し、空欄補充問題や出典法規を問う問題に精通しましょう。重要な教育法規に関する出題例として、1. 憲法 2. 教育基本法 3. 学校教育法 4. 学校教育法施行令 5. 学校教育法施行規則 6. 学校保健安全法 7. 地方公務員法 8. 教育公務員特例法 9. 教育職員免許法 10. 地教法 11. 児童虐待防止等に関する法律 12. 日本スポーツ振興センター法 13. いじめ防止対策推進法 14. 子どもの貧困対策法 15. 中央教育審議会答申(令和3年1/26) 16. GIGAスクール 17. SDGs 18. ESD教育 19. NIE教育 20. 脱炭素社会2050などは時事問題も含めて目を通して欲しい。

(国士舘大学楓教育会だより第7号より、一部引用)